日刊 動労千葉

80.7.13

No. 全国版 58

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一-八（動力車会館）
（鉄電）二二五八～九・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

「再建大会」の破産に追いつめられた「本部」反動分子！

全国版 No.58

全国の動労組合員のみなさん。

「本部」革マル反動分子は、八月全国大会までに何としても「千葉再建」をデッチ上げなければならないということに追い詰められ、「国鉄当局に泣きつき」「権力に告訴する」ことを路線化した労働組合とはいい難い、あのマル生闘争時における鉄労よりも数段右翼的な発想からの陰険な策動を行っています。

全くのデッチ上げ＝「業務再開」

「本部」反動分子とスパイ、裏切分子の「再建」が「昨年全国大会に参加した七名」の実態を一歩も出ていないという現実に追いつめられ、「一〇〇名動員して、八鍬委員長がのり込んで〝再建〟大会をやる」という暴力丸出しの路線をもって、短期転勤者にムリヤリ年休をとらせ、当局に講習室の「安全な使用」を要請して画策した「津田沼支部再建」は、かんじん要の短期転勤者の忌避と動労千葉の総決起によって、六月二八日、七月五日と二度にわたって破産してしまいました。

この現実にうちのめされた「本部」反動分子とスパイ、裏切分子は、「中止していた業務を再開する」なる珍奇な論理をもって、実体のない「再建地本」があたかも存在するかのようなペテンとデマをもって、全国の動労組合員の眼をごまかそうとしています。

現実をまともに見ることができない「本部」反動分子

この「業務再開」の実態は一四〇〇名組合員の大部分が動労千葉に結集し、闘い抜いているという厳然たる事実をまともに見据えることができないまま、「除名者以外は動労組合員である」として土屋粋や嶋田誠等昨年全国大会に参加した七人の裏切、スパイ分子を手先に、佐倉、津田沼支部「役員」といいなし、これを「交渉委員」にデッチ上げ、当局に認知を要請するというものなのです。

当局はこの「動労本部津田沼事務所」の申し入れに対し「55・10」と「56・3ジェット期限切れ」において「当局に全面協力すること」を条件に、明白な不当労働行為も辞さず「交渉委員」を認知し、そのような「御用組合を使って」動労千葉の闘争と組織を破壊しようと企んでいます。

動労千葉の闘争圧殺だけが目的

いまや、誰が真に労働者の立場に立ち切って闘う者であり、誰が当局・権力の手先であるかは明白であります。

「56・10」や「56・3」について、動労千葉の闘いを圧殺するということだけを目的として、権力・当局と「本部」反動分子との野合の実態が、またひとつ、より鮮明な形で突き出されてきたのです。

動労千葉は、労働組合として、現在も将来も職場・生産点に責任をもつものとして、この極反動の実態をとらえてはなさず、断固闘い抜く決意です。

全国の動労組合員のみなさん。

「本部」反動分子が労働者の闘いを当局に売り渡す実態は、「千葉」に限られた問題ではありません。

「55・10」をはじめとする全国のまじめな動労組合員、国鉄労働者の闘いを、「われわれは協定以上の労働条件を取り過ぎているから当局へ返してやろう」という昨年九月の動労東京地本大会の決定方針を路線として当局に売り渡す「本部」反動分子の裏切りを絶対に許すことはできません。

「55・10」を売り渡す「本部」反動分子に未来はない

「三信ビル」へ短期転勤者を呼び出し、緒方や竹内等と一緒にどう喝する東洋大学生革マル・嶋田と、「動労千葉は俺のことをかわないが、松崎さんは〝佐倉の親分〟と言って下にもおかない」ということのみで、労働運動のあり方については「むつかしいことはわからない」「口ではかなわない」と繰り返す土屋をはじめとする数名以外は全く実態のない「業務再開」に対し、動労千葉全組合員は怒りに燃え、この策動は必ず粉砕できるという確信をもって闘い抜いています。

全国の動労組合員のみなさん。

「55・10」を売りわたす「本部」反動分子に未来はありません。

動労千葉とともに決起しようではありませんか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！